

私がなぜ現在の科目を選んだか

「脳神経外科学」

信州大学医学部脳神経外科学講座

浅 沼 恵

私に会う人のほとんどが「なんで脳外科？」と聞きます。そして「よりによって（女子なのに）一番きつそうなところに」「夜中も呼ばれるでしょ」「手術長いよね」「結婚できないよ？」などと続きます。確かにそのとおり…ですが、「なんで脳外科」と聞かれれば「脳が好きだから。手術が面白いから」と答えています。

学生時代は漠然と外科系に進みたいと考えていましたが、脳外科には全く興味がなく、色々難しいから私には無理と思っていました。卒業して一般病院で研修を始めた冬、特に希望したわけでもなく、たまたま脳外科で研修をすることになりました。そこで初めて顕微鏡下に脳を見ました（本当はポリクリで見ているはずなのに全く記憶になかった）。未破裂脳動脈瘤のクリッピング術でした。まず、脳がとても綺麗だったことが強く印象に残りました。それから、鉄でクモ膜や

血管を分けて脳の深部に入っていき操作から目が離せなくなり、夢中で見ているうちに手術が終わりました。今考えると、脳外科ではごく普通に行われており珍しくない手術でしたが、当時の感動は忘れられません。「私もやってみたい、この世界に入りたい」と思い、脳外科に興味を持ちました。脳外科も腫瘍や血管障害、外傷などの手術ばかりではなく、血管内治療、救急、脳卒中、リハビリなど幅広いサブスペシャリティがあることも魅力に感じました。とにかく激務で女医はほとんどいないということはよく分かっていましたが、一生の仕事ですし、妥協せずにいちばん興味のあることをやろうと考え、入局を決めました。十数年ぶりの女医とのことでした。

現在脳外科医になって約2年経ちます。様々な経験を重ねるうちに、脳の面白さだけでなく恐ろしさも知りました。血管の一本でも傷つければ、元気だった人が動けなくなったりしゃべれなくなったりする現実を目の当たりにして落ち込んだり、逆に昏睡状態で来た人が歩いて退院できたことに喜んだり、と日々一喜一憂しています。仕事がきついと思うことは多くありますが、今のところ後悔はしていません。脳を初めて見た時の感動を忘れずに精進したいと思います。

(信大平19年卒)

私がなぜ現在の科目を選んだか

「消化器内科」

信州大学医学部内科学第2講座

丸 山 真 弘

「内科的に全身管理ができ、救急集中治療に携わる機会が多く、内視鏡診断・治療の可能性に心躍らされ、何より内視鏡が好きだから」これが消化器内科を選んだ理由であります。

ここで消化器内科を選ぶまでの経緯を振り返ってみたいと思います。幼少時代から医者になりたいという気持ちはありました。この頃思い描いていた医者像は田舎の診療所で働く内科医でありました。この頃の思い出が内科医を選んだ原点なのかもしれません。

佐賀大学医学生時代の思い出は、内視鏡の見学は（何を見ているのか分からず）睡魔との戦いだったこと、（他の科目よりも相対的に）楽しく勉強ができていたことです。この頃から何となく将来は消化器内科

へ進むのではないかと意識し始めていました。

研修医1年目の長野赤十字病院・消化器内科の思い出は、急性期から終末期医療にわたり携わることができると素晴らしいと難しさ、初めて内視鏡を手にとったうれしさ、人間味があり尊敬できる先生方に出会えたことです。この研修医時代の経験を経て、消化器内科への進路は確かなものになりました。

研修医2年目と内科学第2講座へ入局後1年間、信州大学・高度救命救急センターで経験を積む機会を頂きました。消化器内科を選ぶ直前と直後の期間にあたります。内科医、消化器内科医を目指す以前に、「一人の医師として何ができるのか」この疑問に真正面から挑み続けることができた貴重な期間でした。

幼少時代から救命救急センターでの様々な経験を経て、私は今、消化器内科医として働いています。消化器内科医として働き始めてから、日々、この科の魅力を再認識できています。とりあえずは、5年後、10年後にもこの科の魅力を感じ続けていられるように、日々精進していきたいと思っています。

(佐賀大平18年卒)